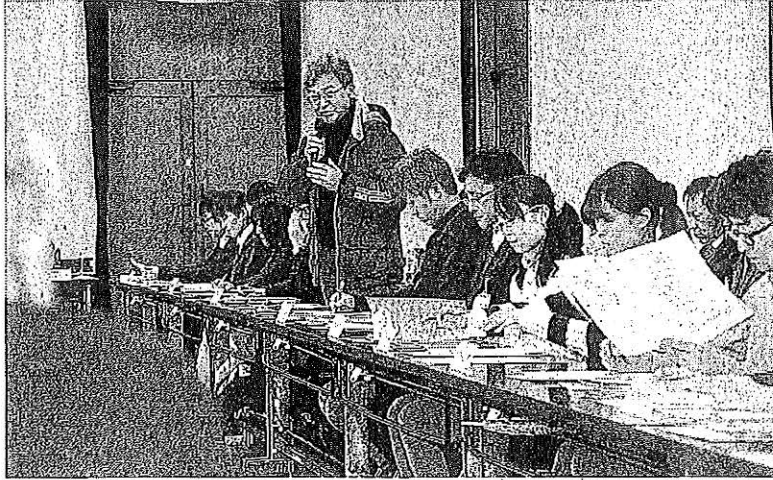


生活支える輪始動



くらしの相談ネットワーク会議で生活困窮者支援について意見交換する出席者

盛岡市ネットワーク会議初会合

独自の対応策検討へ

盛岡市の官民が連携して生活困窮者を支える地域づくりを目指す市くらしの相談ネットワーク会議の初会合は29日、同市紺屋町の勤労福祉会館で開かれた。昨年4月の生活困窮者自立支援法施行を受け、関係機関が情報交換しながら独自の支援体制を検討していく。会議は毎年継続し、生活保護に至らないための環境整備に取り組む。

ネットワーク会議は昨年4月に開設したくらしの相談支援室の新たな相談窓口、NPO法人など困窮者支援に関わる市内約70機関で構成し、同日は約60人が出席。市の担当者が法律施行に伴う生活、就労学習など各種支援事業について説明した。市が相談機関として

「もたれないと厳しい」と包括的な支援の必要性を訴えた。

現状を踏まえ、困窮者の複合的な課題を解決するための関係機関の連携を確認。就労支援と、担い手不足や産業振興など地域課題を結び付けて解決を図るなど、独自の支援体制構築を目指す。

同市上ノ橋町のNPO法人フードバンク岩手の加藤昭一さん(59)は「さまざま意見の交換は自身の役割を考える契機になる。参加する民間機関が増えていけば、支援の充実にもつながら」と期待した。

内容的が多いのが特徴だが、山口貴伸室長(52)は「複数の問題を同時に抱えており、(関係機関の)幅広い協力を